

# Project

KADAI CREATIVEは、東交バス株式会社の「世界に一つだけのアートバスで子どもたちを日本中へ連れ出そう」プロジェクトをきっかけに結成した学生団体です。私たちはこのプロジェクトで1台の大型観光バスに「予想外の変化」が起こったからこそ見つかる「挑戦」、「空を飛べるかも」をデザインしてペイントし、「チャレンジ号」を完成させました。

## 今だからこそできること 大型バスペイントを通して 私たちが感じたこと

創造工学部 3年 西口 菜々子さん



ペイント作業初日の様子です。この日はペイントをする前に表面に凹凸をつけてペンキが定着しやすくする作業や養生を貼ったりしました。



表面に凹凸をつけるためにやすりがけをしている時の様子です。みんなサンダーの機械を初めて使ったので短時間のうちに慣れてしまっただけ作業がすすみました。



下書き作業の様子です。夜の暗い間にプロジェクターで下書きを投影して、それをなぞっています。年末の夜で作業しているところも海の近くだったのでとても寒かったです。



初めてペンキで塗装する作業を行った日の様子です。足場をうまく使って広い面を塗り進めていきました。



人物の塗りに着した目の様子です。ポップで明るい感じに見えるように色合いを工夫しながら塗り進めていきました。



夜景を書き終えたところです。どの作業もそれぞれ難しいポイントはありましたが、ビルの窓の光を描く作業が一番時間がかかりました。マスクやゴーグルを使って窓を一つ一つを描いていきました。



「チャレンジ号」側面左側

KADAI CREATIVEは主に創造工学部造形・メディアデザインコースの1～3年生で構成されている学生団体です。今回ご縁があり、東交バス株式会社のプロジェクトに参加させていただきました。企画が始まったのは2020年度末で、そこから私たちは東交バス株式会社の企画するクラウドファンディングの返礼品の一部を企画・作成したり、ペイントのコンセプトやデザインまですべて学生たちで行ったりと、貴重な体験をさせていただきました。本来は、夏にペイント作業を行うことを目標に、準備を進めてきました。しかし、新型コロナウイルスの流行により活動を制限すべきだと判断し、冬休みにペイント作業を行うこととなりました。予定通り作業が進められないもどかしさはありませんでしたが、メンバーがみんな明るい性格だったため、「夏よりも冬の方がペンキの乾燥が遅く、作業しやすくてよかったね!」とポジティブにとらえながら楽しく作業することができました。私たちがペイントしたバスは「チャレンジ号」と名付けました。これは、デザインのコンセプトに由来しています。そのコンセプトは「シフトチャレンジ」という私たちの造語で、新型コロナウイルスでやりたいことが制限されてしまっている今、できないことをただ嘆くのではなく、何事も前向きにとらえたり、今だからこそできることに目を向けたりして、チャレンジするという姿勢にシフトしていこう、という意味が込められています。ペイント作業中もこのコンセプトの通りに前向きに作業を進めることができたと感じています。このプロジェクトは私たちにとってとても大きなものとなったので、バスに込めたこの気持ちを忘れずに、これからも様々なことに取り組んでいきたいです。



「チャレンジ号」側面右側

# Topics

香川大学のトピックス(11月～3月)を紹介します。 ※ 詳しい記事はQRコードよりご覧いただけます。

## 香川県・東京藝術大学連携事業 を開催



11月6日～12月26日に香川県と東京藝術大学の連携事業「TOKYO GEIDAI ART AUGMENTED REALITY IN 善通寺」が開催され、香川大学が特別協力として参加しました。「リアルにないけどあるリアル」としてデジタルとパッチャルを融合した新たな世界を表現した展示会で、リアルとARで展示されました。AR展示の鑑賞に必要な専用アプリは創造工学部柴田研究室で開発され、文化的な意味やシステムとしての見せ方等の工夫が施されました。リアル展示動員数は328人で、アプリは406回ダウンロードされました。

## 第7回ビブリオバトルin香川大学 を開催



12月1日に、「第7回ビブリオバトルin香川大学」を開催しました。今回のビブリオバトルでは発表者4人が「おすすめ本」を5分で紹介し、「どの本が一番読みたくなったか」を基準とした参加者全員の投票で「チャンプ本」を決定しました。その結果、チャンプ本は農学部4年の原直誉さんが紹介した「センス・オブ・ワンダー」になりました。本イベントでは学生の本や読書に対する関心を高め、プレゼンテーション能力の向上を図るとともに、企画立案を学生スタッフが行うことで主体的に行動する力を身に付けることを目指しています。

## 文部科学省「情報ひろば」において 企画展示を実施



11月12日～12月20日に、文部科学省「情報ひろば」企画展示室で「うまげなかかわ感じてみまい! うどん県住みます学生プロジェクト」の展示を行い、香川大学が本プロジェクトにおいて果たす連携ハブとしての役割をパネルや動画で紹介しました。「地方創生を担う人材育成」を中心に東京圏の連携大学と教育リソースをシェアすることで教育・研究の高度化・豊富化、地方の交流・関係人口増加などを目指して取り組んできた本プロジェクトは各種プログラム実施を通して大学間、自治体や地元企業との連携が活発化してきています。

## 「児童問題研究会 ひばり」内閣府特命担当大臣表彰を受賞



医学部サークル「児童問題研究会ひばり」が令和3年度「未来をつくる若者・オブ・ザ・イヤー」として内閣府特命担当大臣表彰を受賞しました。内閣府では地域における子どもや若者の社会貢献活動において顕著な功績のあった個人又は団体を、「未来をつくる若者・オブ・ザ・イヤー」として表彰しています。児童問題研究会ひばりは昭和58年設立以来、発達に困難を抱える子ども達へのボランティア活動、入院中の子ども達への学習支援等の社会貢献活動を実施しており、それらの活動が認められました。

## 石原良純氏によるキャリア支援 特別授業を開催!!



11月24日、幸町キャンパスでキャリア支援特別授業が開催され、俳優・気象予報士の石原良純氏をお招きして「気象予報士に挑戦したワケ～良純流、キャリアの描き方～」というテーマでご講演いただきました。ご自身の経験を踏まえた題材と切り口で、仕事をする際には楽しみを見つけながら物事に臨み、ぶれずに芯を持つことを大切にしていること、ご自身のキャリア形成は「出会いと偶然」の作用が大きかったことなどを振り返られ、学生たちに「出会いと偶然を逃さず挑戦してほしい」とメッセージをいただきました。

## デジタル・コンテンツ・オブ・ジ・イヤー'21/第27回AMDアワード受賞



一般社団法人デジタルメディア協会のデジタル・コンテンツ・オブ・ジ・イヤー'21/第27回 AMDアワードで、創造工学部の米谷講師が実行委員長を務めた「eかみしばいコンテスト～まちのデータ地図ちーず～」が、地域に根ざしたデジタルコンテンツやサービスの中で、最も優れた功績を挙げた人物・団体に授与されるリージョナル賞を受賞し、3月14日東京の明治記念館で授賞式が開催されました。「eかみしばい」は簡単に作成ができるため、幅広い世代や外国人の参加も可能にし、誰もが情報発信可能な環境の提供、メディアリテラシーの向上に寄与しています。